

ともしび



第152号

2021年1月1日

題字は(故)黒川利雄博士

検診の 特色

- 高い精密検査受診率と高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理

早期発見
早期治療

がん検診は
定期的に!

グー子ちゃん

がん助くん

がん征圧イメージキャラクター



目次

新春のご挨拶	2
宮城県対がん協会名誉会長 久道 茂先生を偲んで	3
副所長就任挨拶	4
2021年度がん検診事業説明会	6
がん予防研修会	7
宮城県対がん協会TV取材、大崎市「健康と福祉のつどい」	8
がん征圧月間、がん征圧全国大会	9
宮城県がん総合支援センターのご案内	10
宮城県対がん協会の新型コロナウイルス感染防止対策(一部)	11
健康コラム	12
ご寄付をいただいた方々、継続寄付のお願い	13
2021年度黒川利雄がん研究基金研究助成金募集のお知らせ	16

新春のご挨拶

公益財団法人
宮城県対がん協会

会長 下瀬川 徹



新年あけましておめでとうございます。

今年は平穏で、明るく希望をもって過ごせる一年でありますようお祈りします。

昨年は新年早々から、不安な一年の始まりとなりました。1月9日に、武漢市で新型コロナウイルス感染症が発生したらしいと報道されたのです。のちにCOVID-19と命名されたこのウイルスによる感染拡大は想像を絶するスピードであり、昨年10月中旬までに世界で4,000万人以上が感染し、110万人以上が死亡するという、人類史上でも稀にみる規模で感染が拡大しました。その最大の特徴は高い潜在性と強力な感染力です。密かに、しかし確実にヒトに感染・伝搬する厄介なウイルスです。

COVID-19感染症は医療を含むさまざまな活動に深刻な影響を与えています。がん検診事業も例外ではありません。感染に対する危惧から検診受診を控える傾向が見られ、全国的にも4月から5月の受診者数が激減しました。当協会も同様で、胃がん(X線)、子宮がん、乳がん、大腸がんのいずれにおいても、4月、5月、6月の3ヶ月に受診者数は当初計画数に比べて大きく減少し、特に胃がん(X線)は計画数に比べると4月が9.6%、5月が11.1%、6月が34.6%の達成率に留まりました。年度はじめの遅れを回復すべく、計画の練り直しを行い後半の挽回に努めています。当協会では新型コロナウイルス感染対策に関する各種ガイドラインを遵守し、感染防止に万全を期しております。がん検診は継続的な受診が早期発見のためには大変重要ですから、受診者の皆様には是非、積極的に検診を受けられるようお願いします。

コロナ禍のなか、大変悲しい出来事がありました。当協会の前会長 久道 茂先生が10月24日にご逝去されました。享年82歳でした。先生は昭和38年3月に東北大学医学部を卒業され、故山形徹一教授が主催する東北大学第三内科教室に入局しました。昭和43年4月から当協会内に創設された本邦初のがん検診センターに入職、昭和47年12月には所長に就任されました。昭和56年8月、東北大学公衆衛生学講座教授に抜擢され、がん検診の有効性を科学的根拠に基づいて証明する研究に全力を捧げられました。平成14年教授ご退官後は、宮城県病院事業管理者ならびに宮城県立がんセンター総長として、県立病院の運営と発展に寄与されました。平成19年に県病院事業管理者をご退職後は、当協会会長に就かれるとともに宮城県医療顧問に就任され、当協会の公益財団への移行を指揮し、また、宮城県の医療の充実と向上のためにご尽力されました。有賀記念学会賞、日野原重明賞、日本癌学会 長興又郎賞、朝日がん大賞、河北文化賞など、数々の栄えある賞を受賞され、平成30年には生まれ故郷である涌谷町名誉町民に推戴されました。

先生は輝かしいご業績、ご経歴にもかかわらず、決して他人に威圧的になることなく、誰にも平等で親しみやすく、包み込むようなお人柄がなんといっても魅力でした。先生の周りにはいつも多くのさまざまな人がいて、先生の博学で、ウィットに富んだお話に耳を傾け会話を楽しむ雰囲気、それが皆の楽しみでした。

日本のがん検診事業は、超高齢化社会、人口減少の加速、社会保障費の拡大などによって、重大な岐路に立たされています。当協会も多くの課題を抱えており、先生にはこれからも多々ご指導を賜らねばならないこの時期に先生が亡くなられたことは、誠に残念でなりません。長年にわたり、先生が当協会で育んでこられたがん検診に対する精神と情熱を大切に、当協会の発展と、がん撲滅のために職員一丸となって努力することを、御霊前に誓いました。

宮城県対がん協会名誉会長

久道 茂先生を偲んで

公益財団法人
宮城県対がん協会

研究局長 深尾 彰

久道名誉会長 略歴



学歴	昭和38年 3月	東北大学医学部医学科卒業
	昭和43年 3月	東北大学大学院医学研究科内科学系専攻修了(医学博士)
職歴	昭和47年 12月1日	(財)宮城県対がん協会検診センター所長
	昭和56年 8月1日	東北大学教授(公衆衛生学講座担当)
	平成 7年 4月1日	東北大学大学院医学系研究科長・医学部長(平成13年3月31日まで)
	平成14年 4月1日	東北大学名誉教授 宮城県病院事業管理者兼宮城県立がんセンター総長
	平成24年 4月1日	公益財団法人宮城県対がん協会会長
受賞歴	平成29年	山上の光賞
	平成29年 9月1日	朝日がん大賞
	平成30年	涌谷町名誉町民推戴
	平成31年	第68回河北文化賞

去る令和2年10月24日、宮城県対がん協会名誉会長、東北大学名誉教授 久道茂先生がご逝去されました。享年82歳、本協会の大黒柱であった先生のあまりにも突然の訃報に、協会職員一同深い落胆と悲しみを覚えております。

先生は、昭和14年涌谷町にお生まれになり、昭和38年東北大学医学部をご卒業、昭和47年若干33歳の若さで宮城県対がん協会検診センター所長に就任され、我が国のがん検診の手本というべき「宮城方式のがん検診」の普及・啓発に尽力されておりました。その活動が人々の健康を科学的に体系化する公衆衛生学の一分野であることが認められ、昭和56年東北大学医学部公衆衛生学教授に任ぜられました。平成7年からは医学部長の重責を担われましたが、平成14年のご退官までの教授在任中、がんや生活習慣病の疫学、高齢者対策など、広範な公衆衛生学の分野はもとより、一貫してがん検診に関する教育研究活動を継続されておりました。平成9年に先生が主任研究者として上梓された「がん検診の有効性評価に関する研究班」報告書(厚生省)は、我が国の多くの研究者が総力をあげてがん検診を科学的根拠に基づいて評価したもので、その後のがん検診の道しるべとなっています。大学ご退官後は、宮城県病院事業管理者、宮城県立がんセンター総長などを歴任され、平成19年宮城県対がん協会に会長として「お帰り」になりました。長年のがん検診に関する研究の成果により、平成29年には「山上の光賞」、「朝日がん大賞」、平成31年には「河北文化賞」を受賞されています。そして今般の訃報は、今年7月に東北大学名誉教授下瀬川先生に会長の座を譲ってゆつくり晴耕雨読(ゴルフと読書三昧?)の日々を送られる手筈が整った矢先の出来事でした。

私が先生とお会いしたのは、私が東北大学第三内科の医員だった昭和55年ころ、消化管診断のトレーニングとして対がん協会に派遣された時でした。当時はまだ医師の育成には「俺のやることを見て覚えろ」的な厳格な徒弟制度が残っていた時代でしたが、先生の温厚で親しみを込めたご指導は私にとってとても新鮮でたちまちファンになりました。その先生の「教室の立ち上げを

手伝ってくれないか」というお誘いをお断りする理由もなく、公衆衛生学の助手に採用していただきました。先生にはそれ以来およそ40年のお付き合いということになりますが、先生は「叱らない」、「断らない」人でした。私はこの間、先生に叱責されたことはありませんし、叱責されたという人の話を聞いたことがありません。ただし、ちょっとつぶやく皮肉、それで十分こわかったですが…。それと原稿でも、講演でも、さらにはゴルフや飲み会でもお誘いには手帳の予定表をうずめるのが義務のようにして対応していました。どちらも凡人の私にはまねのできないことでした。

私がまねをできなかったことがもう一つあります。先生の旺盛な文筆活動です。「医学判断学入門」、「がん検診判断学」、「医学・医療の品格」、「病院監査ことはじめ」、「公衆衛生の責任」等ご専門に関する著書まではわかりますが、なんと「アンデスの神々」、「天空の柄杓(ひしゃく)」、「シャングリラ」、「モンサンミッシェルの満ち潮」、「柳絮(りゅうじょ)舞う」など小説も書かれていのです。小説の方は「茂堂久(もどうひさし)」というペンネームで。これらの小説のいくつかはあの多忙な(はずの)医学部長時代に書かれているのは驚きというほかありません。「深尾君も書いたら」とよく言われましたが、やはり凡人の私には無理でした。

先生が色紙に書かれたお言葉に「疫学を益学に」というのがあります。病気の原因を究明する「疫学」の研究を実際に社会に役立つ形に還元するようにというメッセージです。がん検診の研究はまさにこのメッセージそのものだと思います。もう一つ「無駄ありて無駄なし」というのもありました。その時は役に立たない無駄なことだと思っけていても、そのことが後になって大いに役立つことがあるというメッセージです。何事も「断らない」先生の面目躍如といったところでした。

先生とはもっとお話をしたかったのに、コロナ禍のためにお見舞いもかなわず、あつけなくお別れの時を迎えてしまったことが残念でなりません。先生が書かれた2枚の色紙を見つめながら先生との対話を思い出しつつ、心からご冥福をお祈りしております。合掌。

宮城県対がん協会 がん検診センター 副所長に就任して

略歴

1999年 北海道大学医学部医学科 卒業
2006年 東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学分野 卒業
2011年 University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas research fellow
2015年 東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学分野 助教
2019年 東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学分野 非常勤講師
2020年 現職

公益財団法人
宮城県対がん協会

副所長 浅沼 清孝



この度、加藤勝章先生の所長就任に伴い、その後任として副所長に就任しました。加藤先生は検査業務を牽引するだけでなく、数多くの研究や学会発表を精力的になされ、加えて検診センター全体が円滑に運営できるよう内外の調整役も務めてこられました。その責任ある職を任され身の引き締まる思いです。私は2002年に東北大学大学院消化器病態学分野に入学、上部消化管グループに所属し専門的知識を学んで参りましたが、その折からこちらへは内視鏡研修や診療応援で度々訪れておりましたので、私にとって大変馴染み深い場所であります。また当時の消化器内科教授で、現当協会会長の下瀬川徹先生が私を研究者へと導いて下さり、その所属グループでご指導いただいたのが講師でいらした加藤先生でありました。あれから十数年が経過しましたが、恩師であります両先生と再び仕事を共にできますことは大変嬉しく御縁を感じております。私のこれまでの成長を十分仕事に発揮し協会の発展に努めて参る所存です。

大学院へ入学した当初、私は現秋田大学教授の飯島克則先生に師事し、逆流性食道炎・バレット食道について研究を始めました。研究が進むにつれて学術的な仕事に興味を持ち実験に没頭する日々を過ごし、2011年には米国テキサス大学で研究する機会を得ることができました。振り返りますと私にとってこの約3年に及ぶ米国生活は、研究面だけでなく人間的にも鍛えられる大変意義深い日々でした。異なった国々の人達と協力して仕事を進めていくことの難しさや面白さを実感し、さらに医学のみならず、他分野、他業種の人たちとの交流も積極的に持ちました。特に、薬学や工学など、様々な分野で留学してきた若き研究者達と定期的に研究結果を発表し意見を交わし合ったことは、様々なものの見方・考え方を学ぶことができ本当に刺激的なものでした。これらの経験からより広く社会を見渡す能力を養うことができるようになったと思います。その後、私の米国での研究成果は消化器分野で有名な医学雑誌に掲載されました。そして、このように異国の地にて仕事が順調だったのは、基盤である日常生活を妻が支えてくれたからに他なりません。妻の新しいことに果敢に挑戦するバイタリティーには驚かされることが多く、私のモチベーションにも大いに貢献してくれました。また、テキサスはメキシコ国境に隣接し、二つ

の国の食文化が融合する魅力的な食べ物が沢山あり、留学仲間はずきづきと皆膨よかになっていきましたが、得意の料理で私の体型を維持させたまま日本に連れ帰ってくれたことへも大変感謝しています。今でも我が家の食卓には本場仕込みのテキサス料理がたびたび登場します。帰国後は大学院生を指導しながら研究を続け、2018年には私の研究を評価していただき、当協会の創始者である故黒川利雄先生のご遺志を敬称した『黒川利雄がん研究基金研究助成金』を受賞しました。それから今日まで黒川先生の座右の銘である「山上に山あり、山また山」のお言葉を胸に研究と臨床に励んで参りましたが、今回の就任にあたり、なお一層の努力を一つ一つ重ねていかねばと決意を新たにしております。

今、社会は大きく変革の時を迎えております。新型コロナウイルス感染症は経済を含むあらゆる社会構造に未曾有の混乱をもたらし、既存の少子高齢化などの社会問題が加わったことで日本の社会保障は困難に直面しております。その中でがん検診は今後この社会変化に柔軟に対応しなければなりません。そのためには新規技術の導入を進め、より高い効率と安全を追求する検診体制の確立が重要と私は考えます。昨今のコンピューターやインターネット技術の発展は高度な情報化社会を実現しました。検診においてもシステムのIT化による効率向上や、すでに多くの人が利用しているソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を活用した啓蒙活動や検診受診システムの開発に目を向けていくことも今後は必要となると思います。また、人工知能(AI)を導入した診断技術の開発・導入や個別化した検診サービスの提供なども考えていかなければなりません。当協会では現在、新しい検診の構築を目指して内視鏡画像のAI診断開発プロジェクトに参加しており、より良いサービスを県民の皆様に提供すべく努力を続けております。

宮城県対がん協会です。実際に検診を行う医師は、がんを正確に診断する為に膨大な知識の習得のみならず、症状がない受診者へ侵襲のある内視鏡検査を安全かつ苦痛を最小限に行う高度な技術が必要です。加えて不幸にも病気を指摘された方へしっかり寄り添う人間力が不可欠です。私はがん検診センター副所長としてこれらを克己として検診に専心いたします。そして、これまで育んできた研究力や様々な経験を生かしてAI開発を始めとした革新的技術導入に注力し、より発展した宮城県対がん協会の新しい検診の構築に貢献していきたいと考えております。皆様にはこれまで以上にご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2021年度 がん検診事業説明会

10月2日(金)フォレスト仙台を会場に各市町村及び事業所の担当者様をお招きして2021年度がん検診事業説明会を開催いたしました。

コロナ禍での開催となり、正午過ぎからの時間短縮とし、昨年まで借りていた大ホールを2会場分確保して3密回避や消毒など感染予防に最大限注意を払いながらの事業説明会となりました。

まず、7月に就任された当協会会長の下瀬川徹先生より「コロナ禍での検診数の伸び悩みから、市町村・事業所担当者様のご協力を頂いて、挽回してきている事を報告、今後もコロナ感染予防に万全を期しながら取り組んでまいります。」と話され、後半の「がん予防研修会まで参

加頂き、有意義な時間を持っていただけたら幸いです。」と開会の挨拶をされました。

続いて当協会の阿部洋事務局長より2021年度の事業方針の説明があり、新型コロナウイルス感染症対策の基本対処方針に即して、県民の皆様が安心して受診できるような感染予防体制の構築と、協会で実施している全ての検査項目について検診時期と料金なども含め詳細に報告されました。

最後に新しい生活様式に対応した‘がん検診’と公益事業の充実を図りながら県民のニーズに応えるよう態勢づくりに取り組んでまいります。と結びました。



▲下瀬川徹会長



▲阿部洋事務局長



がん予防研修会



▲看護課齋藤純子主幹

がん検診事業説明会に引き続き、第二部としてがん予防研修会が行われました。

看護課齋藤純子主幹の進行で進められ、前半は、当協会がん検診センターの加藤勝章所長から、「宮城県の胃内視鏡検診のあり方について」という演題で、対策型胃内視鏡検診の実施体制や流れ等を図で分りやすく解説されました。

また、当協会が実施する仙台市胃内視鏡検診についても、データ提出の流れ、2019年度の受診者数、不用意・不必要な生検や再検査が不利益の増大に繋がる事からダブルチェックによる要精検の妥当性の評価が重要であることを話されました。その他、宮城方式による胃内視鏡検診の精度管理についても、一次検診からデータ管理までを一元管理し、遠隔読影クラウドシステムによる受診可能な医療圏の広域化を目指し、最終的には、がん検診とがん治療の広域医療連携をはかっていると報告されました。

続いて、東北大学大学院医学系研究科客員教授・東北大学名誉教授で聖隷福祉事業団及び登米市病院事業特別顧問の大内憲明先生から、「がん検診のあり方と新型コロナウイルス感染症への対応」について、お話していただきました。

がん検診のあり方に関する検討会での報告を中心に、5月26日に厚労省から発信された新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言の解除を踏まえた各種検診等における対応について改めて説明され、ご所属されている聖隷福祉事業団保健事業部のコロナ禍におけるがん検診受診状況も紹介され、他県の検診状況が若干ではありますが参考になったのではないのでしょうか。

今後は、がん検診の利益・不利益、行政・事業所の担当者との調整を含め検診計画の見直し、検診従事者を含め徹底した感染防止対策を講じることが大事であると講演を終了しました。

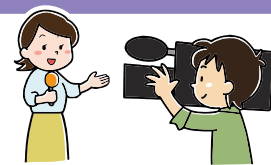


▲加藤勝章所長



▲大内憲明先生





コロナ禍におけるがん検診の取組みが取材されました

塩釜市で行われました9月16日(水)の胃がん検診と、当協会がん検診センターの加藤勝章所長にKHB東日本放送の取材があり、翌日の17日(木)夕方の「チャージ」番組内で放送されました。

検診現場では、入口での検温・手指消毒・マスク着用の徹底、3密対策を講じている待合や問診の様子が取材され、その中の一部が放映されていました。

受診者からは、自分自身が気をつけているし、会場も感染防止対策をしっかりとしているので、特に心配せずに受診していますと心強いコメントもありました。

加藤所長からは、検診を受けない事によって、早期に見つけられるがんも進行してしまう事が危惧されるので、是非がん検診を受けていただきたいと番組を通して検診受診に繋がるようコメントしました。



大崎市「健康と福祉のつどい」

2020年10月17日(土)大崎市古川保健福祉プラザ1階にて健康まつりが開催されました。

コロナ禍で小規模開催とし、大きく告知はせず当日を迎え伊藤市長とパタ崎さんによるオープニングの挨拶でスタートしました。

当日は、「健康と福祉のつどい」をテーマに、感染予防対策をしっかりと行いながら体力測定や

心の相談まで様々なコーナーを設けてありました。がん予防コーナーとして当協会ではコロナ対策の為、リーフレット配布とパネル展示で啓発活動を行いました。中には説明のパネルをじっくりと眺めてからスタッフに質問される方も何組かいらっしゃいました。会場内は家族連れで盛り上がり、外は地元物産販売コーナーが盛況でした。



▲挨拶をする伊藤市長とパタ崎さん



▲質問に答える協会職員

がん征圧月間

がん征圧月間とは、毎年9月にがんの正しい知識と早期発見、早期治療の普及啓発に力を入れる月間のことです。しかし、今年度のがん征圧月間については新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常よりも規模を縮小しての月間となりました。例年では宮城県対がん協会でもがん講演会、一番町がん啓発行進等の催しものを予定していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止いたしました。

その中でも当協会のがん検診センターと仙台市各区



役所(一部除く)への懸垂幕の設置やがん征圧月間の新聞広告での啓発活動、宮城県内の市町村へのがん征圧ポスターや禁煙ポスターの配布、県庁でのパネル展、オンライン開催によるがん征圧全国大会への参加等、様々な活動をいたしました。

特に、今年度の県庁でのパネル展に関しては、9月14日～25日までの祝日が多い時期でいつもとは違う2階通路での展示となりましたが、多くの方々が足を止めてパネルをご覧になっていたようです。



がん征圧全国大会

がんに対する知識を深め、予防の大切さを訴えるがん征圧全国大会は当初宮崎市で開催予定とされておりましたが、新型コロナウイルスの影響により宮崎での開催は来年度への延期とし、今回は9月18日(金)午後1時～3時までの間で初のオンラインでの開催となりました。公益財団法人日本対がん協会垣添忠生会長より「今年度の4、5月はほぼがん検診受診者がゼロに近かった。最近では回復傾向にあるが、通年での概略計算をすると4,000～5,000人のがん患者が発見されず、進行がんとなり発見されるのではないかと。また、新型コロナウイルス感染症が終息を迎えたとしても、完全に元のライフスタイルに戻ることはないと考え、今までとは別のアプローチのがん対策が求められる」との挨拶がありました。

大会1部では日本対がん協会賞と朝日がん大賞の表彰式が行われました。

大会2部ではWEBシンポジウム「コロナ時代のがん検診」が開催され、新型コロナががん検診に及ぼした影響とその対策について、ということのがん検診と感染予防の両立で成果を上げている支部である宮城、愛媛、栃木の3支部によるオンラインのシンポジウムが行われました。

当協会ではがん検診センター加藤勝章所長が参加し、新しい生活様式の定着を前提とした社会経済活動の再開や当協会のコロナ対策、検診会場の紹介等を踏まえ、胃がん検診の受診間隔が延長した場合の影響や生存率等について説明しました。また、緊急事態宣言解除後のがん検

診再開の課題として、がん検診によるがんの早期発見より、検診受診による新型コロナウイルス感染のリスクを恐れ、がん検診の受診控えが増えるのではないかとこのことですが、新型コロナウイルス感染症は一部では重症化しますが、多くは自身の免疫機構で自然治癒します。一方、がんは放置することによって進行して死に至ります。コロナウイルスを正しく恐れつつも新しい生活様式を実践して感染予防に努め、がん検診を受診して早期発見に尽力しましょう。と締めくくりました。

愛媛県総合保健協会の呉田貴志総務部長兼経営企画部副部長は、コロナウイルスが住民・事業所・市町村・検診団体の4方面にどのような影響を及ぼすかを解説し、協会での対策としてのWEB予約や3密回避の具体的方法の説明をし、住民検診に高齢者が多いことから車での送迎や検診会場の工夫で受診率アップを目指すとのことでした。

栃木県保健衛生事業団の永井充洋集団健診部長は当初計画と変更後の検診日程や日数の比較をメインに説明し、新たに健康状態確認票を作成し問診票とともに事前チェックしたり、胃X線検査後にペットボトルの水を配布する等、3密以外の対策も講じているとコロナ時代のがん検診について述べられ、シンポジウムが締めくくられました。



宮城県がん総合支援センターのご案内

宮城県がん総合支援センターとは(がんの相談窓口)

- がんに関する心配や悩みがある時、不安な時など、どなたでもご利用いただける無料の相談窓口です
- ひとりで抱え込まずに、お気軽にご連絡ください
相談窓口以外にも患者会の支援やがんピアサポーターの養成研修を行っています
- 宮城県がん総合支援センターは宮城県から委託を受けて宮城県対がん協会内に設置しています

例えば、こんな時にご利用ください

- ・病気のことを考えると気持ちが沈む、誰かに話を聞いてほしい
- ・仕事と治療の両立について、どうしたら良いかわからない
- ・病気や治療のことについて情報がほしい
- ・緩和ケアについて知りたい
- ・医療費はどれくらいかかるのか?何か使える制度はあるの?
- ・どの治療法を選べばいいのかわからない
- ・家族ががんと言われたが、どう接すればいいのかわからない



《がん相談》

TEL 022-263-1560 FAX 022-263-1548 メール zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

(ホームページの相談フォームをご利用ください)

相談体制 がん相談員(保健師)が
ご相談をお受けします

相談方法 電話、面談(要予約)、メール
手紙、FAX

相談受付 月曜日～金曜日まで
(祝日・休日、年末年始は除く)
午前9時～午後4時まで

設置場所 〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉5-7-30
宮城県対がん協会内



宮城県がん総合
支援センターです

宮城県がん総合支援センター 検索

※必要な場合は適切な窓口を紹介します
※症状や病気に関する診断や治療について
判断することはできません
※秘密は厳守します

費用 相談にかかる費用は**無料**です
(通話料は相談者の負担となります)



面談は予約制です



《がん患者会の支援》

「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」の事務局を担当しています。
現在 30 団体が加入しています。

《がんピアサポーターの育成》

がんのピアサポーターとは「がんを体験した人同士がピア(仲間)として体験や悩みを共有し、ともに考え、がん患者さんや(またはその家族)を支援(サポート)する人のことをいいます。
(今年度のがんピアサポーター養成研修会はコロナウイルスの感染防止のため開催を中止しました)

宮城県対がん協会の新型コロナウイルス 感染防止対策(一部)

新型コロナウイルス対策を講じながら、受診者の皆様が安心して検査を受けられるよう職員一同感染防止に努めております。

当協会では、各種がん検診、がん生活習慣病健診、胃内視鏡や大腸内視鏡検査全てにおいて、受診者の方全員へ新型コロナウイルスに関する体調や検査前の行動確認を含む、6項目を伺っています。

また、検診センターの入り口においては、サーモカメラにて体温測定を全員行い、マスク着用と手指消毒をお願いしています。詳しくは、当協会のホームページと本誌7月号をご覧ください。

6項目(体調や検査前の行動確認)

- 1 感冒症状・発熱がありませんか
- 2 強い倦怠感・息苦しさがありませんか
- 3 味覚・嗅覚の異常がありませんか
- 4 4—5日続く下痢などの消化管症状がありませんか
2週間以内に
- 5 新型コロナウイルス感染者や感染疑いのある者と
濃厚接触していませんか
- 6 海外への渡航歴はありませんか

※6項目のうち1つでも該当された方は、別日でのご案内をさせていただいております。①～④は新型コロナウイルスの特徴的な症状となっています。⑤～⑥該当の場合、新型コロナウイルス感染のリスクが高いため、確認させていただいております。

検査の際、お一人ずつ検査台や使用したものを消毒・清拭いたしております。また、常に換気も行っているため、例年より当施設内では肌寒く感じますので、お越しの際は掛物や上着の持参のご協力をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスに対し、万全な対策をとっておりますので、ご心配せずにお越しください。



ロコモティブシンドローム知っていますか？

ロコモティブシンドローム＝ロコモとは…

移動するための能力が不足したり、衰えたりした状態を指します。人間が、立つ・歩く・作業するといった広い意味での運動のために必要な身体の仕組み全体を運動器と言います。運動器は、骨・関節・筋肉・神経などで成り立っていますが、これらの組織の障害により立ったり歩いたりするための身体能力が低下した状態のことです。ロコモが進行すると、将来介護が必要になるリスクが高くなります。決して高齢者だけがかかる病気ではなく、40歳代から対策をとっていくことが大切です。

気軽にできるロコモチェック

1. 階段を上がるのに手すりが必要
2. 15分くらい続けて歩けない
3. 横断歩道を青信号で渡りきれない
4. 2kg（1Lの牛乳パック2本やお米程度など）の買い物をして持ち歩くことが困難
5. 家の掃除器の使用や布団の上げ下ろしなどのやや重い仕事が困難
6. 家の中でつまずいたり、滑ったりする
7. 片脚立ちで靴下が履けない

1つでも当てはまるものがあれば、対策が必要です！
ロコモ予防体操などを取り入れて、ロコモの進行を食い止めましょう!!

ロコモ予防体操 ～1日3回行いましょう～

1 開眼片脚立ち

左右1分間ずつ転倒しないように、必ず何かにつかまり、床につかない程度に脚をあげます。

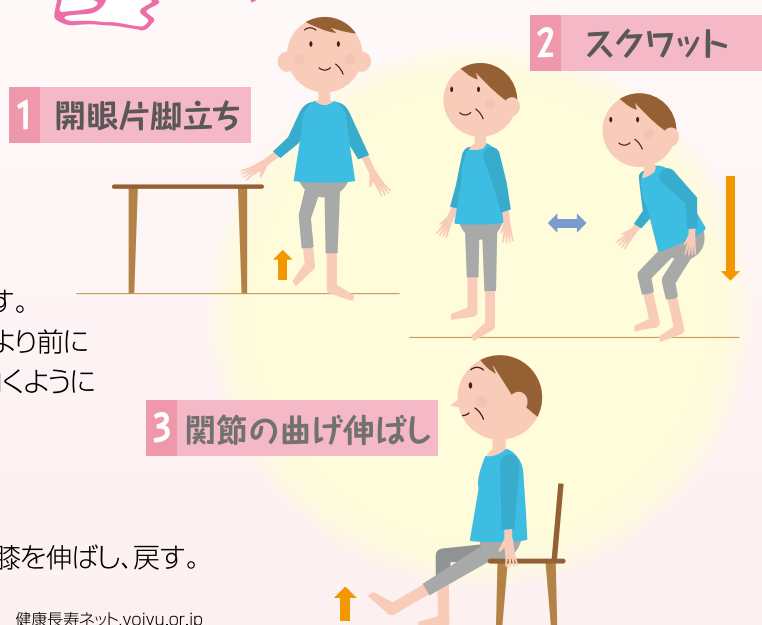
2 スクワット

5～6回、肩幅より少し広めに足を広げて立ちます。つま先は30度くらいずつ開きます。膝がつま先より前に出ないように、また膝が足の人差し指の方向に向くように注意して、お尻を引くように体をしずめます。

3 関節の曲げ伸ばし

10～20回、太ももの前を意識しながらゆっくり膝を伸ばし、戻す。

ロコモトレーニング



参考:ロコモONLINE/ 東京法規出版+10からはじめる運動習慣,p16/ロコモ体操 健康長寿ネット.yojyu.or.jp

ご寄付をいただいた法人・個人

2020年6月1日～2020年11月30日受付分
順不同・敬称略

■篤志寄付金

佐藤秀逸、高山美和、伊藤久美子

■黒川基金

三浦和美、齋藤千晴

■新検診センター建設基金

熊谷和夫、久道茂、永窪紀代美、菊地章子、奥山里恵、田代孝

■特定維持会員

イシイ株式会社、コヤマリネン株式会社、株式会社仙台銀行、株式会社サン・ベンディング東北

■賛助会員(議会)

塩竈市議会事務局、松島町議会、多賀城市議会、大衡村議会、石巻市議会議員会、色麻町議会、東松島市議会、七ヶ浜町議会、栗原市議会、名取市議会議員会、山元町議会、七ヶ宿町議会、柴田町議会、女川町議会事務局、丸森町議会、蔵王町議会、富谷市議会、亘理町議会議員会、美里町議会、大河原町議会議員互助会

岩沼市議会: 沼田健一、長田忠広、渡辺ふさ子、酒井信幸、布田恵美、高梨明美

利府町議会: 羽川喜富、高久時男、土村秀俊、木村範雄、安田知己、伊勢英昭、鈴木忠美、伊藤司、鈴木晴子、遠藤紀子、坂本義也、渡邊博恵、今野隆之、西澤文久、及川智善、永野渉、吉岡伸二郎、渡辺幹雄

涌谷町議会: 涌澤義和、黒澤朗、後藤洋一、大友啓一、鈴木英雅、杉浦謙一、久勉、伊藤雅一、稲葉定、佐々木みさ子、佐々木敏雄、竹中弘光、大泉治

村田町議会: 菊地睦夫、鈴木正信、鈴木宏、山家大、村上登、佐藤洋治、大沼吉隆、遠藤実、鈴木保博、斎藤万之丞、太田初美、吉野敏明

大郷町議会: 千葉勇治、吉田耕大、佐藤牧、赤間茂幸、大友三男、佐藤千加雄、田中みつ子、熱海文義、石川壽和、和賀直義、石垣正博、若生寛、石川良彦、高橋重信

大和町議会: 佐藤昇一、門間浩宇、渡辺良雄、藤巻博史、堀籠日出子、馬場久雄、大須賀啓、槻田雅之、高平聡雄、穴戸一博、千坂博行、佐々木久夫、今野善行、児玉金兵衛、千坂裕春、馬場良勝、犬飼克子、今野信一

■賛助会員(法人)

塩釜商工会議所、(株)ショクテン、株式会社佐藤製線所、熱海建設株式会社、ワタヒョウ株式会社、株式会社佐浦、仙台和光純薬株式会社、宮城県中小企業団体中央会、石巻商工会議所、カメイ物流サービス株式会社、株式会社T・D・C、高橋印刷株式会社、有限会社ふじや千舟、東北総合信用保証株式会社、宮城県自動車事業協同組合、(株)三陸新報社、アツミ自動車株式会社、気仙沼窯業株式会社、上西産業株式会社、仙南信用金庫、学校法人明和学園いずみ高等支援学校、株式会社リバーヴ、気仙沼商工会議所、青葉緑化工業株式会社、宮城石灰工業株式会社、株式会社白松がモナカ本舗、株式会社イメージパーク、株式会社あさの、(株)銀座薬局、東興産機株式会社、常盤化工株式会社、白石商工会議所、石巻魚糧工業株式会社、若生工業株式会社、古川商工会議所、東日本興業株式会社、菅甚建設株式会社、仙台商工会議所、株式会社メガネの相沢、宮城十條林産株式会社、仙台ガス保安工事株式会社、株式会社深松組、株式会社佐々直、宮城商事株式会社、株式会社ひまわり薬局、株式会社羽田電機工業所、東北放送株式会社、株式会社石井組、東日本メディカルシステム株式会社、宮城中央ヤクルト販売株式会社、仙台市防災安全協会、松田産業株式会社、カイリク株式会社、株式会社仙台カントリークラブ、株式会社ダイコクヤ、東北アルフレッサ株式会社、仙台弁護士会、クレア工業株式会社、渥美工業(株)仙台支店、(株)三株園茶舗、株式会社新日電業商会、マルニ食品株式会社、株式会社小山商会、石巻信用金庫、勝山企業株式

会社、アフラック仙台総合支社、東北特殊工業株式会社、(株)藤崎、弘進ゴム株式会社、アルプスアルパイン株式会社、カメイ株式会社、志津川オリエント工業株式会社、株式会社仙台放送、株式会社渡辺探種場、涌谷観光株式会社、学校法人朴沢学園、税理士法人青木&パートナーズ青葉支店、有限会社サトー孔版印刷、松林商事株式会社、株式会社東北保険事務所、株式会社イート

■賛助会員(農協)

みやぎ亘理農業協同組合、名取岩沼農業協同組合、JA仙台、みやぎ仙南農業協同組合、宮城県農業協同組合中央会

■賛助会員(医師会)

遠田郡医師会: 医療法人社団博亮会野崎病院、袖井クリニック、涌谷町国民健康保険病院、美里町立南郷病院、医療法人章真会熱海医院、医療法人社団順社会佐々木整形外科

宮城県塩釜医師会: ウィメンズクリニック利府、無量井泰、青葉台クリニック、いけの医院、今井信行、医療法人社団横山小児科医院、藤野整形外科、医療法人敬仁会遠藤医院、多賀城腎・泌尿器クリニック、関クリニック、岩井内科クリニック、医療法人社団杉山内科、渡辺眼科、山田憲一内科医院、赤石病院、大井皮フ科泌尿器科、(医)中山クリニック、公益財団法人宮城厚生協会坂総合病院、本間正明、金医院内科胃腸科、医療法人社団喜英会加瀬クリニック、医療法人社団利府内科胃腸科医院、医療法人日和我おだかクリニック、山田耕道、笠神ハートクリニック、大井産婦人科、ささき内科呼吸器科クリニック、医療法人米地会よねち内科クリニック、塩竈市立病院、鳥越塩釜腎クリニック、医療法人及川内科医院

加美郡医師会: 医療法人佐々木胃腸科、医療法人社団伊藤医院、大山医院、加美郡保健医療福祉行政事務組合

角田市医師会: 医療法人本多友愛会、(医)金上仁友会金上病院、医療法人安達同済会同済病院、高山敦

岩沼市医師会: 町田幸雄、(医)社団さくら有鄰堂、(医)丹誠会、有田大作、医療法人社団みやぎ清輝会緑の里クリニック、医療法人社団スズキ病院、医療法人五葉会山本クリニック

栗原市医師会: 医療法人社団水天会宮城島クリニック、医療法人社団ささき産婦人科クリニック、医療法人社団玄成会、若柳消化器内科、一迫内科クリニック、(医)公和会さくら内科クリニック、栗原市立若柳病院、栗原市立栗原中央病院、栗原市立栗駒病院

黒川医師会: 公立黒川病院、医療法人盟陽会富谷中央病院、吉岡まほろばクリニック、医療法人社団田山小児科医院、新富谷S・Sレディースクリニック、(医)社団広茂会瀬戸医院

柴田郡医師会: 我妻恵、(医)玉川太田内科、医療法人社団北社会船岡今野病院、やすだ耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック、宮上順志、さくら小児科医院、医療法人庄司クリニック、猪股芳文、みやぎ県南中核病院附属村田診療所、みやぎ県南医療生活協同組合、国民健康保険川崎病院、大沼胃腸科内科外科医院、みやぎ県南中核病院

石巻市医師会: 石巻赤十字病院、川原田博章、川村尚道、伊藤内科クリニック、石塚圭一、あらい脳神経外科クリニック、相沢正俊、阿部洋一、医療法人T&K坂井内科胃腸科、古山元之、高橋邦広、やまもと産婦人科、いしのまき矢吹クリニック、久門俊勝、箕田紳一郎、こばやし医院、二宮健次、よしろう内科、大街道じゅんクリニック、田中典和、舘田治、しらゆりクリニック、佐藤信男、中浦内科医院、佐藤内科医院、石巻診療所

仙台市医師会: 大内明夫、山口胃腸科外科医院、佐竹医院、遠藤外科医院、榛澤清昭、馬場眼科、高橋剛、武山恒男、医療法人社団秀薫会池田クリニック、師研也、医療法人翔仁会仙台ARTクリニック、(医)宏樹会

やたべ内科・訪問診療クリニック、医療法人社団嘉数会、塚本二郎、千葉内科医院、まつばら水の森クリニック、長谷川小児科医院、ほし外科医院、妹尾重晴、南光台伊藤クリニック、あんどうクリニック、長池産婦人科、福室クリニック、湯村医院、泉パークタウンクリニック、仙台柳生クリニック、医療法人社団本島内科胃腸科クリニック、医療法人松田会松田病院、相田内科医院、早川哲夫、小林内科医院、医療法人子羊会メリーレディースクリニック、(医)松田会八木山内科クリニック、大澤内科医院、田勢亨、医療法人社団三好耳鼻咽喉科クリニック、今井克彦、(医)社団新樹会木町小児科医院、佐藤英幸、社会医療法人康陽会、森ウイメンズクリニック、桂島いずみクリニック、医療法人岩切病院、荒巻なべ胃腸科内科クリニック、(医)若林浜田クリニック、まきこ内科クリニック、南中山内科クリニック、医療法人社団小林眼科医院、山本眼科医院、医療法人結城クリニック、福田内科クリニック、わだゆうこ眼科クリニック、五十嵐産婦人科医院、庄司眞、曽根眞一郎、医療法人宏人会、医療法人社団山家内科医院、佐藤茂、森元富造、椎葉健一、石田一彦、石田望、東北医科薬科大学病院、町田眼科医院、阿部内視鏡内科、袋原内科医院、黒澤光樹、医療法人ひろせ会広瀬病院、安田病院、東北公済病院、目黒由紀、医療法人社団千樹会角田記念まつだクリニック、宮崎豊、仙台北部整形外科、野口哲也、中田内科胃腸科医院、清水内科外科医院、樋渡信夫、佐藤互、五十嵐稔、結城道広、仙台消化器・内視鏡内科クリニック泉中央院、早坂愛生会病院、医療法人社団村口きよ女性クリニック、一般財団法人広南会広南病院、大内憲明、(医)大史会みやぎきクリニック、佐藤玄徳内科クリニック、泉レディースクリニック、医療法人社団清山会、今野医院、北中山皮膚科、京極クリニック、医療法人社団脳健会仙台東脳神経外科病院、医療法人社団杏仁会河原町病院、ゆうき婦人科産科クリニック、河北診療所内科、武者クリニック、はんだ整形外科クリニック、医療法人有麟堂堀田内科、豊田隆謙、公益財団法人宮城厚生協会長町病院、プレシオーソクリニック、角田記念ちえこ・ゆきかレディースクリニック、佐藤彰、今井克忠、岩切中央クリニック、セイントマザークリニック、南光台みやぐち内科クリニック、仙台ソレイユ母子クリニック、花壇医院、(医)清水会かわせみクリニック、佐治クリニック、医療法人秀茂会、公益財団法人仙台市医療センター仙台オープン病院、内科・胃腸科小田原クリニック、かさい内科クリニック、八木山すずきクリニック、小野寺英朗、泉内科消化器科、大山明、仙台赤十字病院、一般財団法人厚生会、婦人科クリニック古賀、松本小児科、医療法人清和、医療法人仙台胃腸クリニック、鬼怒川博久、(医)燦英会、東二番丁診療所、佐藤俊裕、長島内科医院、医療法人社団仙台腎泌尿器科、医療法人貝山仁済会、(医)きんぱらクリニック、医療法人桑友会佐藤裕也眼科医院、医療法人田所ハートクリニック、シャンボール青葉産婦人科、医療法人社団沖野内科医院、JR病院菊地亮介、高橋メンタルクリニック、しな子女性クリニック、医療法人社団フォーギブネス、白根昭男、台原高柳病院、齋藤親弘、泉ヶ丘クリニック、仙台今村クリニック、藤田直孝、ふるさと往診クリニック

大崎市医師会:古川星陵病院、医療法人社団近江医院、(医)星眼科医院、医療法人中川記念ちか子女性クリニック、富樫クリニック、医療法人ありま小児科医院、岩渕仁寿、医療法人永仁会永仁会病院、沼田功、渡辺外科胃腸科医院、高橋郁朗、医療法人森皮膚科医院、医療法人社団千葉医院、大崎市病院事業大崎市民病院、医療法人社団慈篤会三浦病院、大崎市病院事業大崎市民病院鹿島台分院、佐藤医院、大崎市病院事業大崎市民病院岩出山分院

登米市医師会:遊佐内科胃腸科医院、二瓶次郎、医療法人社団田中医院、八嶋中央診療所、医療法人社団亮梓会三浦消化器内科、大坂國通、登米市立登米市民病院、小澤道孝

桃生郡医師会:伊東胃腸科内科、医療法人桃桜会、真壁病院、ししど内科クリニック、舘田要、医療法人社団信和会ものうファミリークリニック

白石市医師会:(医)梅津内科医院、医療法人塚本内科消化器科、こまつ

外科内科クリニック、浅野俊弘、大泉記念病院、恒心会佐藤医院、公立刈田総合病院

名取市医師会:名取中央クリニック、金沢内科胃腸科、館腰クリニック、佐藤滋、ひまわり内科・消化器科クリニック、原田乳腺クリニック、佐々木晴邦、曽我内科こどもクリニック、医療法人イルソーレ、桑島一郎、医療法人武田内科医院、浜田A&Bクリニック、宮城県立がんセンター**亘理郡医師会**:浅生原クリニック、医療法人社団松村クリニック、医療法人三浦クリニック、みやぎ南部整形外科クリニック、熊谷明

■**宮婦連**

逢隈婦人会:渡辺芳、三品せつ、八巻富士子、三品美智子、齋藤多寿子

一迫婦人会:狩野良子、氏家あい子、三浦一子、熊谷初美、松田文子

永野支部婦人会:佐藤ひさ代

遠田郡地婦連:横田臣子、菊地千恵子、栗野トシ子、佐々木敬子、鑑清枝、瀧川澄江

塩釜市地域婦人団体連絡協議会:中村和子、我妻キクエ、高橋多賀子、大戸ミツ子、宮崎智恵子、三浦つかゑ、小野和恵、浅野ひろ子、小野秀子、三浦あいこ、佐々木和恵、大山とみの、林富子、阿部豊子、鈴木綾子、千葉知子、菅原モリ子

花山婦人会:菅原加津子、千葉しづ子、千葉とくみ、及川喜留子

階上婦人会:畠山幸子、小野寺美津子、前田若代、小山光子、川村和賀枝

角田市地域婦人会:玉手富美子、加川昭子、保志都、中畑繁子、遠藤美代子、保志とみ子、鎌田三千子

館矢間婦人会:塚原るり子、佐藤初子、岡崎恵子、永橋節子、和田百合子、佐藤伸子、菊池友子

丸森婦人会:上村文子

岩出山婦人会:五十嵐ゆり子

吉田西部婦人会:小野節子、大河原みつ子、大槻かづ子、安藤美重子、松山芳子

吉田婦人会:佐々木ミヨ、小野美佐子、岩佐直子、渡部とも子、岩佐美津子、齋藤桂子、小野典子、穴戸浩子、斎藤律子、鈴木好子、川崎カツ子、森美奈子**宮崎婦人会**:米澤幸子

金成婦人会:渡辺和子、千田京子、鈴木美千代

古川地婦連:千葉七重、我孫子妙子、菅原末子、門脇宗子、大條昭子、島田美枝子、佐藤祥子、小出和子、西村信代、木村一枝、佐々木登貴子、永塚正子、晴山たえ子、浜田美知子、木村洋子、大場典子、菅原十四五、大友富子

荒浜婦人会:佐藤富美子、濱野かじ子、森恵子、阿部みや子、穴戸ひろ子、渡部とし子、菊地英子、馬場道子、永浜由紀子

志波姫婦人会:三浦末枝、菅原峰子、相馬桂子

鹿島台婦人会:今野勝千代、久道カヨ子、小堤キエ子、阿部百合子、金澤とよの

七ヶ浜町婦人会:千葉志美枝、三島知恵子、相澤由美子、佐藤美代子、佐藤民恵

柴田郡婦連:竹野幸子

女川町婦人会:阿部とまえ、遠藤悦子、梁取礼子、木村佳代子、鈴木信子、阿部苑子、伊藤ふみ子、小山栄子、高橋京子、岸サワ子、平塚文子、東海久美子、勝又菊枝

小斎婦人会:星京子

松山婦人会:小関裕子、小野政子、大友紀、菊地優子、早川つね子、齋藤京子、川江礼子

松島町婦人会:丹野タキ子、大橋るい子、高橋きぬ子、高城尚子、樋口弘子、横田きえ子、山崎周子、宮田幸子、三浦信子、桜井とし江、内海美子、櫻井君子、櫻井壽美子、天野安子、鈴木紘子、桜井貞子

色麻婦人会:千葉としえ

新田婦人会:遊佐牧子、星ちゑ子、千葉郁子、笠原貴代子、久光教好、小林愛子

西小野田婦人会:米川ちよみ、高嶋信子、渡辺栄

多賀城市婦人会連合会:江釣子真理子、鈴木絹子、平山裕子、吉田多江子、鶴田文子、阿部純子、笹原うた子、堀米喜代子、渡辺あや子、相沢良子、菊地きみ子、鈴木誠子、大内芳子、阿部多枝子、後藤みよ子、桜井やえ子、門田昭子、渡辺千代子、田母神充代、稲葉愛子、松村敬子、渡辺とめ、平野美津江、佐藤セツ、根本菊江、伊藤輝美、小野雅代、小野くに子、小野絹子、庄子よし江、白濱宣子、菊田百合子**大崎市田尻地域婦人団体連絡協議会**:窪田順子、佐々木幸子、遠藤キミ子、千葉孝子、高泉トミ子、瀬戸憲子、宮川マサ子、鎌田凉子、畑山信子、高橋道子、舞嶽智子、濱名一子、鈴木信子、佐藤美江、村山せつ子、佐藤文子、砂金眞知子、菊地睦子、松野かつ子、小笠原勝子、鈴木信枝、鈴木静子、佐藤文子、伊藤ちかの、青木まき子、鎌田光子、秋山満子、高橋恵子

大張各種婦人会:大槻静江

大内婦人会:石田真利子、森れい子、荒祥子

大和町吉岡婦人会:浅野洋子、児玉久子、若生みさを

大和町吉田婦人会:佐藤美枝子、今野玉枝、堀籠美江子

大和町宮床婦人会:千坂祐子、熊谷順子、浅野よし江

大和町鶴巣婦人会:門間勝枝、熊谷ひろ子、犬飼元子

中新田婦人会:中島智江、佐々木妙子、芳野禮子

東松島市大塩婦人会:高橋沙代、須田栄子、真籠聖子

東松島市矢本婦人会:千葉成子、相澤数子、木村礼子、河島清子、浅野美枝子、土井幸子、田中敬子、津田美枝子、佐藤豊子

白石市地域婦人団体連絡協議会:斎藤ゆう子、佐藤きよ子、渡辺幸子、太田さき子、吉川淑子、大野のり子、島影幸子

白石市婦人会:佐藤みや子、国分良子、岡崎好子、長谷川治子、村上たき子、横山亜衣、草野いく子、堀道子、佐藤晴代、栗原幸江、石川照代

筆甫婦人会:目黒房子

米山婦人会:高橋ひさよ、菅原清子、佐々木邦子、三浦きさ子、後藤直子

豊里婦人会:遠藤しみ子、芳賀芳枝、只野好子、大友秀子、八木しみ子**名取市地婦連**:名取ヶ丘婦人会、関上婦人会、愛島婦人会、館腰婦人会、

増田西婦人会、渡辺洋子、跡部まりこ、丹野優美子、星居敬子、渡邊勝子、高橋志津枝

利府町婦人会:伊藤みつ子、安藤美津子、佐々木美貴子、櫻井幸子、伊藤恵子、佐藤ちよ、小山田律子、大類直子、渡辺みえ子、石橋節子、林せつ子、西澤久子、品部陵子、大友明美、貝山昭子、布施明子、木村みゆき、小林いく子、高橋良子、永塚清子

亘理婦人会:小野寺貞子、相原成子、岩見富子、三戸部とし江、佐藤徳子、高橋泰子、馬場さえ子、戸引よし子、佐野みさゑ、斎藤みよ、佐藤キクヨ、渡辺みつ江

稲井婦人会

賀美石婦人会

大島婦人会

■**個人**

土井きよゑ、松坂英明、高橋治、遠藤好英、阿部美代子、菊地民子、嶋美香、安藤裕子、阿部利子、曾根サイ、市川信昭、高橋敬一、澤田幸男、稲垣晃、笹原啓子、鈴木ハツヨ、辻るみ子、大井襲充、坂田雄一郎、亀岡直樹、豊浦康男、佐々木博司、佐藤好子、大友浩志、内海春壽、阿部はつ江、亀山米子、加藤静夫、高橋龍郎、加藤玲子、佐野國男、岡嶋泰子、佐藤孝之助、亀山省吾、早坂純、猪狩惺、安住泰子、尾坂芳夫、紺野久子、三島法律事務所三島卓郎、渥美ヤエ子、鈴木八郎、三浦祐子、阿部かしく、越後愛子、藤代大、塩崎晴朗、ひまわり法律事務所佐々木健次、小松亀一法律事務所、櫻田良子、橋川光男、五島さよ子、星達也、高橋秀典、佐々木政子、石黒典子、郡山芳治、武田雅比人、菊地敦子、福地欣子、阿部英晃、山口正彦、山口正一、門間典子、高橋正子、佐藤京子、黒川平司、関口清、犬飼健郎法律事務所、中澤さく子、林恵、齋藤ミツ子、木村俊子、萬里崎吉政、大友キクエ、早坂征市、千葉昌男、佐藤艶子、根元京子、菅間和子、我妻倉吉、加藤春男、中川ユリ、後藤ふじゑ、佐藤たまを、大泉ちね子、石川司之、穴戸玲子、佐々木春子

■**職員**

守谷崇、石塚建次、熊谷和夫、湯田教恵、阿部洋、布田直樹、及川貴司、佐藤亘、三部哲也、永窪紀代美、佐藤朝子、鈴木ゆき子、井上眞由美

賛助会員(個人・法人の継続寄付)募集しております。

当協会では、がんに関する正しい知識の普及啓発、がんの早期発見・早期治療のための調査研究等の事業を行っています。このような事業活動は皆様からの尊い寄付により支えられています。

なお、寄付金については**税制上の優遇措置**を受けることができます。**個人**の方からの寄付金は、所得税において優遇措置対象となり、寄付者の方は確定申告の際に従来の**「所得控除」と「税額控除」のいずれか有利な方を選択**して控除を受けることができます。**法人**の寄付金に対する優遇措置としては、**「特定公益増進法人」**に対する寄付に該当しますので、**法人税法上の規定による限度額が損金**として認められます。

《寄付金の種類》

- | | |
|------------------|--|
| ■ 賛助会員寄付 | 協会の活動をご支援いただき、毎年ご寄付をしてくださる方 |
| 個 人 会 員 | 1□　1,000円以上の寄付者(個人) |
| 法 人 会 員 | 1□　10,000円以上の寄付者(団体・法人) |
| | 特定維持会員　寄付金の額を定めて「がん征圧運動」に一層の協力支援をいただいている法人 |
| ■ 篤 志 寄 付 | 協会の活動に対する一時的な寄付金 |
| ■ 黒 川 基 金 | 黒川利雄がん研究基金のためと使用を指定した寄付金 |

がん征圧に向けた、あたたかいご支援ご協力をお待ちしております。

ご寄付のお申込、お問い合わせは下記までお願いいたします。

公益財団法人　宮城県対がん協会　法人事業課

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5-7-30　TEL 022-263-1637　FAX 022-263-1548
ホームページアドレス　https://www.miyagi-taigan.or.jp

「黒川利雄がん研究基金」

研究助成金希望者募集

この基金は、当協会の初代会長である故黒川利雄先生の遺志を継ぎ、がんの予防及び早期発見、治療に関する技術の開発等に係わる若手研究者に対し、研究助成を行うことを目的に平成元年に創設されました。

2020年までに、126人に対し8,230万円の助成金を交付しています。

1 研究対象分野と応募資格

わが国のがん予防および早期発見に関する技術の開発等、がん対策に係わる研究を行う50歳未満の個人および団体で、以下の研究分野を対象とする。

- (1) がんの疫学および集団検診に関する調査・研究・開発
- (2) がんの早期発見および治療に関する調査・研究・開発

2 申請手続き

申請者は宮城県対がん協会の理事または、貴所属長の推薦を受けた者とする。

3 応募件数および推薦件数

1個人・1団体または共同研究グループで1件とし、推薦件数も1人1件とする。

4 助成金の額

助成総額は220万円とし、研究助成金1件あたり100万円を限度とする。

5 応募手続

応募希望者は下記宛にハガキまたはFAXで申し込むか、当協会ホームページより申請書類をダウンロードの上申し込むこと。

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5丁目7番30号
公益財団法人 宮城県対がん協会「黒川利雄がん研究基金」事務局 宛
TEL 022-263-1637 FAX 022-263-1548 <https://www.miyagi-taigan.or.jp>

6 募集期日

公 募 2021年1月

募集締切り 2021年3月末日

7 発表交付

発 表 2021年5月

交 付 2021年6月